

令和2年度 目黒区立第八中学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

新型コロナウイルス感染防止のため、書面により実施しました。

2 参加者

〇〇〇〇さん（大岡山東住区）、〇〇〇〇さん（同西住区）、〇〇〇〇さん（トキワ松学園教頭）
〇〇〇〇さん（平町児童館長）、〇〇〇〇さん（元PTA役員）

3 評価の結果等

評価項目	四者による学校評価アンケートの結果分析 ◎（成果）、●（課題）、 ⊙（成果と課題の両者を含む）	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて （上記3項目の平均値） 保護者 89.4% 生徒 94.9% 地域 70.9% 教員 93.1%	◎学校全体への肯定的評価はここ数年高い数値を維持できており、特に生徒においては94.9%が充実した生活を送っていると答えている。 ●地域の方からの評価が70.9%と他から比べて低い、「わからない」という回答が30%と多くを占めた。	・次年度、どのような状況でも、子どもたちの歩みを止めないよう工夫して教育活動にあたりたい。 ・地域へは今年度、行事や学校公開等をできる範囲で実施する。 ・次年度の教育活動については、できる範囲で様々な行事や学習活動に取り組んでいきたい。	・昨年度と比較し、肯定的な評価が下がった項目もあるが、全体的には安定しているように思う。 ・数値が下がったものの、「学校生活は充実しているか」「より良い人間関係が築けているか」は高い評価を維持している。学校生活の充実ぶりがうかがえ、素晴らしい。
I 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について 保護者 84.9% 生徒 91.6% 地域 88.0% 教員 97.4%	◎教育目標や指導の重点は、保護者会などで説明できており、地域や保護者にも浸透している結果と考える。 ⊙教育活動を公開できなかったことで、地域や保護者からはポイントが下がったが、生徒は「考えて行う」場面に多く接していたため、意識して学校生活を過ごしていたと考える。	・コロナ禍における学校生活の過ごし方を説諭するために、放送による全校朝礼や学年だより等で教育目標を基に考えさせる場面が多かった。来年度も教育目標の徹底を図っていく。 ・引き続き重点目標を「考えて行う」とし、生徒、保護者、地域に周知し、あらゆる場面で徹底して指導していく。	・重点項目「考えて行う」が定着しつつあるように感じる。コロナ感染が拡大する中、新しい生活様式が求められており、「考えて行う」ことは大切である。 ・目標に向かって今、何をすべきかと考えることは一生涯必要なことである。教育目標を意識することでたくさん学ばせてほしい。
II 心の教育について ・道徳科（道徳）の授業の充実や児童・生徒の道徳	◎9割の生徒が、道徳の授業を通して、自分ならどう行動すべきかを考え、相手	・コロナ禍の中、オンラインでのパラアスリートの講演会や、発達段階に応じた対	・ほぼ全員の生徒が思いやりの心をもって、いじめをしないように生活して

実践力の向上に向けた取組について 保護者 85.7% 生徒 99.2%	と意見を共有することで、より良い生き方について考えている。他者への思いやりをもち、いじめをしないように心掛けている。 ◎コロナ禍において、密を避けるための距離間を保つ必要があったが、生徒が真摯に自分の考えや意見を交わすことができた。	面での「いのちの授業」を行うことができた。生徒は目標に向かって努力を継続することの大切さや自分の存在の大切さを学ぶことができた。来年度はオリンピック・パラリンピック教育とも関連させ、さらに人権尊重の精神や障害者理解についての学習を深めていく。	いる様子が数値からうかがえる。 ・道徳の授業を楽しみにしている様子もうかがえる。「自分の考えをもつ、伝える、理解し受け入れる」様子が生徒からうかがえる。オンラインによる講演会など、積極的に行えるといい。
Ⅲ 学習指導等について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 保護者 67.0% 生徒 93.3% 教員 94.9%	◎授業の工夫や分かり易さを評価し、理解ができていた生徒がどちらも9割を超え、昨年度と比べても、6.8%も増加している。 ◎コロナ禍の影響で、実施できなかった職場体験は、高等専修学校等による出張授業とし、貴重な体験ができた。 ●宿泊行事は修学旅行以外無くなり、キャリア学習については、各学年内容をしばって行った。 ●生徒の学力の定着への保護者の肯定的評価が昨年度より6.6%減っている。	・臨時休業期間には各教科からの課題に加えて、eラーニングを活用して家庭学習の定着を図ることができた。利用者数を増やすことが課題である。 ・来年度は、生徒個人への情報端末も貸与されているので、各授業におけるITC教育を充実させながら、危機管理として、いざという時に、オンライン授業等の対応が実施できるように、教員が知識や活用術を身に付ける研修を随時行っていく。	・情報端末の活用を強く期待する。情報端末を活用することで、学習方法も変わり、学習も深まる。 ・情報モラルについても家庭との連携を図り、生徒が自らの判断で責任をもって活用できる力を身に付けてほしい。 ・生徒もさることながら、先生方も新しい指導法にチャレンジしなくてはならない状況と思う。先生方にも頑張ってもらいたい。 ・コロナの影響か、保護者の評価が低い。
Ⅳ 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 保護者 78.3% 生徒 89.6% 教員 79.5%	◎今年は運動会・区連体など行事が中止になり、絶対数も減り評価が下がった。 ●取組が減ることで生徒のストレスが増えたりするなど、学校生活にも影響することを痛感した。今後より一層健康・体力促進に向けて工夫を重ねていく。	・授業中の運動量を確保するため、3分間走・筋トレ・肩甲骨柔軟など授業の初めに帯で取り組む。 ・体育理論・保健などで「運動と健康」の関係性を伝えていく。 ・「給食だより」等で食育の充実を図る。	・運動会や区連体などが中止になり、残念だった。新しいアイデアを生み出す好機と捉えて、健康維持・向上に努めてほしい。 ・助産師を講師に招いての「いのちの授業」は思春期の生徒たちにとって大切な学習の機会である。
Ⅴ 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、部活動の活性化などについて 保護者 73.6% 生徒 90.5%	◎昨年度同様、特別活動（学校行事、生徒会活動、部活動）が充実していると感じている生徒の割合が高い。 ●保護者、地域、教職員による肯定的な評価が減少	・中止、または規模を縮小する活動の代替となる活動に関し、その趣旨や内容を丁寧に説明していく。生徒はもちろん、保護者や地域にもそれが伝わるよう、説明の機会を多くもつ。	・運動会や合唱コンクールなど大きな行事ができない状態が今後も続くことが予想される。全校生徒が一斉に集まるのは難しいので、学年単位でできる行事を工夫してほしい。

地 域 77.8% 教 員 66.7%	した。今年度は中止したり、規模を縮小したりする活動が多かったことが原因の一つと考えられる。	生徒だけでなく、保護者や地域に対しても、一層丁寧に説明をしていく。	・部活動は生徒が楽しみにしているものである。無理のない範囲で充実させてほしい。
Ⅵ 学校生活全般について ＜生活指導＞ ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 保護者 89.4% 生 徒 94.8% 地 域 61.5% 教 員 94.9%	◎「教職員は、誠実に子どもや保護者に接している」に対する保護者の肯定的な評価が昨年度と比較して 4.2 ポイント増加した。生徒の肯定的な評価も 2.1 ポイント増加した。 ●反対に、地域の方からの肯定的な評価が昨年度と比較して 22.5 ポイント減少した。	・生徒や保護者はもちろん、地域にも学校の取組が伝わるよう、説明の機会を多くもつ。 ・不登校生徒に対して、定期的に家庭連絡を入れる、配布物を渡すなど、つながりが切れないように連絡を密にする。 地域に対しても、一層丁寧に説明をしていく。	・登下校の様子を見ているが、落ち着いた学校生活を送っている様子がうかがえる。 ・いじめや不登校に対して引き続き早期発見、早期解決に努めてほしい。 ・E組の生徒たちとの交流はお互いを思いやる貴重な場になっているように思われる。
＜防災教育・安全指導＞ ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 保護者 80.4% 生 徒 94.0% 教 員 92.3%	◎昨年度同様、防災教育・安全教育が充実していると感じている生徒の割合が高い。 ●昨年度と比較し、保護者による肯定的な評価が 5.3 ポイント減少した。コロナ禍のため避難訓練を行う回数が少なかったことが原因の一つと考えられる。	・中止した避難訓練の代替となる学習に関し、その趣旨や内容を丁寧に説明していく。生徒はもちろん、保護者や地域にもそれが伝わる ・一人一台情報端末を貸与するにあたり、生徒だけでなく、保護者にも情報モラルについての意識を高めてもらう。	・コロナ禍であるが、避難訓練を計画的に実施している様子がうかがえる。災害時、中学生は戦力となることを意識してほしい。地域との連携を密にしたい。 ・情報モラルや視力低下の問題は家庭の協力がないと難しい。課題を共有しながら情報端末の活用を図ってほしい。
＜幼・保・小・中連携＞ ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について 保護者 76.4% 教 員 79.5%	◎「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」において小学 6 年生と中学 2 年生の児童・生徒全員が小グループに分かれての話し合いを行った。その際の事前交流会などを工夫し、より効果的な話し合いが進められた。 ●今年度は小中の教員がお互いの授業を見合う研修や、小学生の部活動体験ができないなど、例年できていた活動が十分にできなかったことが評価を下げた原因と思われる。	・今年度は、交流や活動に大きな制限があったため、できる範囲での活動になったが、今後も工夫し良い教育活動につながるよう、小・中連携を図っていききたい。 ・「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」は軌道に乗ってきた反面、ややマンネリ化したところも感じられるのでより良いものにするために工夫・改善を図っていく。	・ここ数年、大岡山小との連携が進んでいるのを感じる。保護者にももっとアピールしてみてはどうか。 ・「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」はいじめをなくす上でとても意義のある取組だと思う。工夫・改善をしてさらに充実させていってほしい。 ・小中連携はとても大事だと思う。今後も工夫して継続してほしい。 ・楽しいはずの学校生活がコロナ禍で制限され、残念だった。

VII 情報の発信、家庭・地域との連携について ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA 活動の充実などについて 保護者 82.5% 地 域 74.1%	◎家庭への教育活動の発信はたよりを始め、ホームページの更新、見守りメールなど、様々なツールを活用しこの状況下だからこそ、一層の情報発信に努めた。 ●一方で PTA 活動は自粛のためかなり縮小しての活動であった。また、保護者の方に関わっていただくこともできない状況だったため評価が下がってしまったと考える。	・来年度も信頼される学校を目指し、様々な機会を利用し学校全体で情報発信に努める。 ・学校だよりや学年だより等において、学校の様子や生徒の諸活動を伝えたい。 ・ホームページや見守りメールなど電子媒体の可能性を模索し保護者や地域との一層の連携を深めたい。	・学校だより、ホームページなどで学校の様子がよく分かる。ホームページをさらに活用してみたらどうか。 ・今年度は地域行事がほとんどなくなり、生徒の活躍の場がなく残念であった。児童館には、生徒の作品を展示するスペースもあるので、活用してほしい。地域の連携にもつながるものと思われる。
VIII 教員の人材育成について ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 教員 84.6%	◎緊急時の対応など協力して様々な問題に対応することができた。 ●コロナ禍で多忙を極める中、来年度へ向けた新学習指導要領などの研修が十分だったとはいえ、教員間でも不安を感じるものが多い結果ではないか。	・チームとしてともに教育活動に当たれるよう、報連相を心がけ、校内での OJT を充実させる。 ・新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を意識し、各々の教員が授業の充実に努め、常に授業改善に努める。 ・情報端末が導入され、ICT 機器を使った授業を誰もが展開できるようにする。	・先生方が忙しい中、新型コロナウイルス感染防止のために苦勞されている様子がうかがえた。今後も工夫して教育活動に取り組んでほしい。 ・情報端末を活用することで仕事の効率化を図ってほしい。 ・先生方に対する要求が厳しくなっている気がする。チーム八中で様々な困難を乗り越えてください。
IX 教員の働き方改革について ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 教員 74.4%	◎コロナ対応で、様々な職務が重なる中、業務を見直し、様々なツールを活用し効率化を図ることができた。 ●一部、業務の偏りが発生し、負担が増えた場面もあるため、チームとして連携を深める必要もある。	・今後も業務について見直しを進め、C4th 等、新しいツールも活用方法を模索していく。 ・業務の偏りについては、学校全体では見えづらい部分もあるので、分掌や学年、教科内等、小グループ内での見直しを中心に進めていく。 ・管理職の監督の下、特定の人に業務が偏らないように配慮する。	・働き方に対する、先生方の意識も変えていく必要があるのではないかな。 ・保護者も何でも学校に持ち込むのではなく、家庭でのしつけや基本的な生活習慣についてしっかり子どもに指導することが必要ではないか。 ・教員の働き方改革を進める上で、保護者の理解や協力が必要だと思う。 ・教員の評価が低いのが気になる。